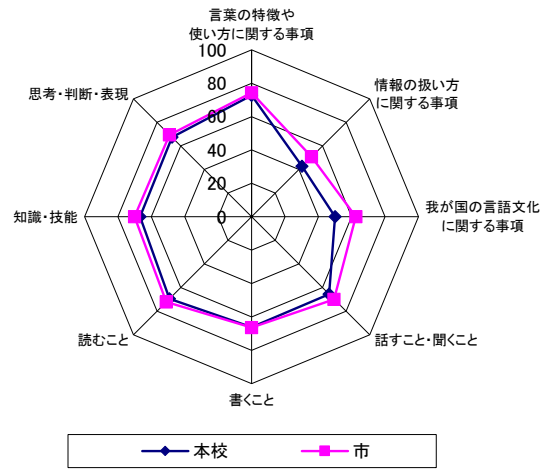


宇都宮市立西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.7	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	42.6	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	65.7	69.9	69.7
	書くこと	66.2	66.4	64.6
	読むこと	69.6	72.3	71.0
観点別	知識・技能	66.8	70.1	70.0
	思考・判断・表現	67.5	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

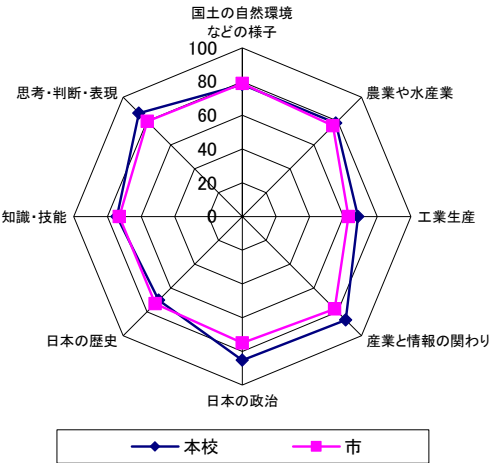
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ●熟語の成り立ちについて理解しているかを問う問題や文章の中で適切な漢字を用いて答える問題に課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字については、自主的な練習を促すとともに、朝の学習の時間や授業開始の時間、宿題なども活用して繰り返し練習をして定着を図っていく。また文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使用できるような漢字の習得の仕方を工夫する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡潔にまとめ2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。	・授業の中で、目的意識をもち文を書いたり文の要旨をまとめたりする活動を取り入れる。また、文章を正しく読み取るための段落の構成について学習させ、図や表、グラフなどの読み取り方について指導していく。 ・条件に応じて文を書く機会を意図的に設定する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●謙譲語について理解し、正しく使う力の不足や漢字の由来について理解しているかを問う問題について課題が見られる。	・新たな課題として尊敬語や謙譲語、丁寧語の使い方の習得を図る。また文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使用することができるような漢字の習得の仕方を工夫する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○話し手の役割を理解して、計画的に話し合うことについては、正答率が100%であり市の平均を上回っている。 ●互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合う場面から発言を考え、記述する問いでは、市の平均を13.6ポイント下回った。	・授業や学校生活の中で、話し合い活動を多く取り入れ、話し方の工夫や司会の役割を考えながら、実際の話合い活動をもとに、計画的に話し合いを進めていけるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○目的や意図に応じ伝えたいことを明確にすることができている。 ○自分の意見とその理由を明確にして書けている。 ●目的に応じて文章を簡単にまとめて書くことについては、課題が見られる。	・テーマや条件、目的や意図に合わせたり、グラフや表をもとにしたりして、伝えたい内容を整理しながら書けるように、具体的な書き方を提示しながら文章表現力を高めていく。また、目的に応じて文章を簡単にまとめて書くことについては、昨年に引き続き課題が見られるため、低学年から実践していけるような活動を朝の学習に取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を2.7ポイント下回っている。 ○「場面の描写を読み取ることができる」、「与えられた情報を読み取り、修正する箇所を理解することができる」については、市の平均を上回っている。 ●登場人物の心情を捉えて読み取ることについては、課題が見られる。	・登場人物の様子や情景を基に心情を捉えられるようにして読み取りを進めていく。また、児童が様々な作品や文章に触れる機会を増やし、読書に親しむ態度の育成や読書活動の充実を図っていく。

宇都宮市立西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.2	78.9	75.4
	農業や水産業	78.4	76.1	71.2
	工業生産	68.6	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	86.8	77.6	59.7
	日本の政治	85.3	75.0	79.3
	日本の歴史	70.2	73.1	72.8
観点別	知識・技能	74.4	73.0	71.4
	思考・判断・表現	86.8	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

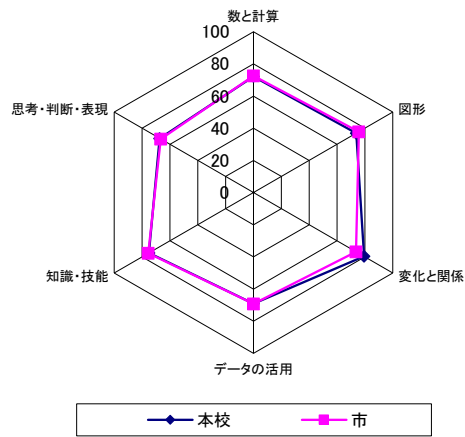
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	全体的な校内の平均正答率は、市の結果と同等である。 ○日本の主な地形の名称の位置の理解をもとに、地図を読み取っているかを問う問題では、市の平均より12ポイント上回っており、理解できている。 ●日本の周辺の海洋名について答える問題については、市の平均を8ポイント下回っていることから理解不足である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・資料の読み取りや活用については、よく理解している児童が多いが、生活の中で、日頃から地図を見る機会を増やしていき、地理的知識の習得を図っていく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉え、判断する問いでは、市の平均より8ポイント上回っている。また、米の生産量や農業人口ををめぐり課題の資料について表を読み取る問題については、市の平均と同等である。	・資料から読み取れる内容を整理し、そこから何が考えられるかを導き出すような、思考力を問う問題を扱うとともに、分かったことを説明する機会を増やすことで、分析する力の向上を図る。
工業生産	平均正答率は、市の平均を5.7ポイント上回っている ○自動車工場の作業の過程や大工場や中小工場の知識、鉱産資源の輸入について資料を読み取る問題では、いずれも市の平均を約6ポイント上回っている。	・自動車工場の見学や体験授業など、実際に目にしたり触れたりする活動を通して、児童が知識や理解を得ることができるよう、工夫する。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市の平均を9.2ポイント上回っている。 ○インターネットを利用する時の注意点について理解しているかを問う問題では、市の平均を5.2ポイント上回った。	・昨年度に比べて正答率が高く、市の平均も大きく上回っている。引き続き、社会科に限らず情報モラル教育を実践していく。 ・情報機器の種類や操作の方法については、日頃から様々な情報機器を使用することに加え、多くの資料に触れることを通して、資料活用能力を伸ばしていく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を大きく上回っている ○裁判のしくみや国会の働きについて理解が高く、どちらも市の平均を約20ポイント上回っている。 ●日本国憲法における三原則について、理解しているかを問う問題では、市の平均より1.8ポイント下回っている。	・国会、内閣、裁判所のそれぞれの役割や日本国憲法のなどして内容を理解し自分の言葉で解説するなどして定着を図るようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を下回っている ○弥生時代の村の様子や人々の暮らしを捉え表現する問題では、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ●室町文化の特徴について捉え、表現する問題では、市平均より21.5ポイント低く理解不足である。	・歴史的な事実をしっかりと覚え、それぞれの出来事が相互に関連していることをよく理解できるようにする。また、歴史上の出来事について、キーワードとなる言葉を中心に、関係している人物も含めて説明できるようにする。

宇都宮市立西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.2	72.6	73.1
	図形	73.9	75.7	74.7
	変化と関係	79.4	73.6	66.1
	データの活用	69.1	69.2	70.7
観点別	知識・技能	75.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	67.3	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

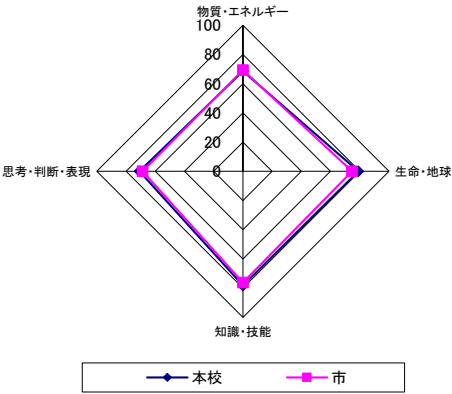
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内の平均正答率は、市の平均と同等である。 ○分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ●小数どうしの乗法・除法の計算問題や、図を使って小数倍の文章問題に合った乗法や除法の式を選ぶ問題において、市の平均を下回っており課題がみられる。	・前学年の履修事項の定着について、レディネステストを実施し把握した上で学習に入る。 ・小数・分数の計算の仕方について再度指導するとともに、計算ドリルや復習プリントを活用し、計算技能の定着を図っていく。
図形	校内の平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○体積を求めたり六角形の内角の和を求めたりすることができる。 ●三角形の内角の和が180°であることを理解し、与えられた三角形の1つの外角を求める問題や、点対称な図形について対称の軸が何本あるかを求めたりする問題で市の平均を下回っている。	・公式を中心に面積や体積の求め方について復習し、図から底辺に当たる部分や高さに当たる部分などをスムーズに読み取ることができるように、図形の見方に慣れさせていく。 ・展開図や見取り図の見方について理解が深められるよう練習問題を繰り返したりして、内容の定着を図っていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を5.8ポイント上回っている。 ○値に0がある分離量の平均を求めたり、表から面積と人数の割合を求めどの公園が最も混んでいるかを考察したりする問題で、市の平均より12ポイント上回っている。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題において、市の平均と同等であるが、円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題では、市の平均を7ポイント下回った。	・単位量当たりの大きさや速さの学習や割合の学習内容については、5年生の学習時に重点をおいて指導するとともに、理解が深められるように、練習問題を積み重ね定着を図っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均と同等である。 ●代表値を用いて、記録がクラスの半分より高い記録なのかどうか記述する問題で3.3ポイント下回っている。	・記述式の回答法について、普段の授業から子供たちが自分の考えをノートにまとめたり、自分の言葉で授業のまとめをしたりする日々の積み重ねによって、力を身に付けさせていく。

宇都宮市立西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.6	69.3	65.7
	生命・地球	79.0	74.7	77.8
観点別	知識・技能	78.2	76.2	76.4
	思考・判断・表現	70.8	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を0.7ポイント下回っている。 ○コイルの巻き数の多い電磁石が、強い磁界を生じることを問う問題では、全児童が理解できている。 ●ふり子の一往復する時間の求め方を問う問題では、23ポイント市の平均を下回っている。	・視覚に訴えたり体験的に学習を進めたりすることで、理解を深められるようにしていく。また、プリント学習等を通して、繰り返し復習できるようにする。 ・実験を行う際には、何と何を比較するための実験なのか、何を明らかにしたのかなど、実験のねらいを明確にし、繰り返し説明をしながら進めるとともに、実験結果から何が言えるのか考察する場面を丁寧に進めていく。 ・理科における表現力を高めるために、言葉の意味を丁寧に説明したり、プリントへの記述や発表の場を設けたりすることで使い方の練習を繰り返し、基礎的な語彙力として定着するよう支援していく。 ・物が燃える時には酸素の一部が使われることを理解しているか確かめる問題の誤答では、「酸素がすべて使われる。」が多かったことから、問題文の正確な読み取りとともに授業での理解が十分でなかったことが考えられる。今後も授業の中でまとめの場面を充実させるとともに、文章や言葉の使い方、正確な読み取り方や聞き取り方についても繰り返し触れていくようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均よりも4.3ポイント上回っている。 ○台風の動き方に関する問題では3.1ポイント、物の燃え方を問う問題では、7.7ポイント市正答率を上回った。 ●食べ物を通した動物と植物の関係を指摘する問題で、ろうそくの火が消えた理由を考察し、改善して記述をする問題では、市の平均を下回っている。	・天気に関連する問題では身近な問題として取り上げることが可能なので、テレビの天気予報や新聞の天気欄等を継続的に活用するなどして視覚に訴え、理解を深めるようにしていく。 ・実際に触れることができない内容については視覚教材を充実させるとともに、画像や情報から読み取れることやそれらを結び付けた考えかたなどに触れられるように、考察の場面を十分に確保していく。

宇都宮市立西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	漢字の読み書きや、より速く正確に計算する力をつけるため、単元ごとの漢字ミニテストや計算ドリル学習を行っている。また、少人数指導、IT指導など学習形態を工夫することで個に応じて学習の定着を図っている。タブレット端末学習を導入し、各自の進度に合わせて学習に取り組ませて着実な定着を図っている。	勉強が好きと答える児童も多いが、あまり好きでない児童も少なくない。宿題は毎日の習慣になっているが、取り組み方には個人差が見られる。 授業が分かると自覚している児童も多く、基礎基本の定着が図られている。今後も、漢字や計算ドリルに継続して取り組ませていく。
話し合い活動の充実	自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分と比べながら聴く時間を確保したりしている。ペアやグループでの話し合いなど、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	グループでの話し合いに進んで参加することについては市の平均を下回っている。しかし、児童の様子を見ると、ペアやグループでの話し合いがスムーズに進められるようになってきていることを感じる。今後も、話し合いの機会を多く取り入れ、根拠をあげながら話す力がつくよう、継続して取り組んでいきたい。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の考えをつないだりするノート指導を行っている。	自分の考えを分かりやすくノートにまとめていると答える児童も多いが、学年によって苦手とする児童も多い。板書のみならず、キーワードを与えて自分なりにまとめたり、友達のノートを参考にしたりする機会を設けていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎基本の定着は、個人差が大きい。次年は個に応じた学力の向上を図るべく、習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導法を工夫し、保護者と連携し家庭学習の習慣を定着させる。

・学校課題である「主体的」「対話的」「深い学び」につながる学習活動における話し合い活動では、引き続き授業の様々な場面で教科の特性を生かしながら、ペアやグループでの話し合いに加えて、授業者を介して児童同士が自分の考えを広げたり深めたりできるような授業を展開する。

・授業のまとめについては、本時の課題に対して自分の言葉でまとめることで、学習したことの理解を深めていけるようにする。また、振り返りは、短期目標や長期目標に応じて個人内評価を行い、児童自身が変化や成長を感じられ次時への意欲付けが図れるように活用する。